

# オリエンティア倍増計画！

どうしたらオリエンティアが増えるのか？地域クラブの知恵

山本英勝

オリエンティアを増やすためには、新たにオリエンテーリングをやる人たちを増やし、辞めていく人たちを減らすのが必要である。今まで大きな新オリエンティアの供給源であった学生が減少するにつれ、地域クラブでの初心者勧誘がオリエンテーリング競技人口の拡大の鍵である。現在どのような取り組みを地域クラブはしているのだろうか？

## 初心者はお断り？

初心者はお断りとまでは言わないが、現在オリエンテーリングは初心者が始めにくい面がかなりあると言わざるを得ない。

大会の情報を入手しにくい。大会が遠い。都心から2、3時間かけて電車で行った上に、駅から会場まで数十分歩いて、さらにスタートまで数十分歩く。ゴールから会場までも遠いと、実際にオリエンテーリングをしている時間はほんの僅か。

大会に行っても、やり方も分からない。運が良ければ、オリエンティアに誘ってもらって最初は教えてもらえるが、一回やったぐらいでは一人で回れるほど簡単でない。

このような状況なのでたまたま一人でオリエンテーリングを始めた人は「すごい。良く始めましたね。」と驚かされてしまうぐらいである。

実際初心者への各県協会の対応をウェブという点でざっと見てみると、調べた北海道、宮城、長野、福井、茨城、東京、埼玉、神奈川、静岡、愛知、岐阜、京都、大阪のうち、【初心者向け】の案内があるのは愛知県だけ。それも【オリエンテーリング紹介】【大会に参加してみよう】があるだけである。

上記県協会（及びJOA）のウェブにはオリエンテーリングとは何かを紹介するページさえない。

結果、昔はそれなりの数があった1000人規模の大会も最近はほとんどなくなってしまった。

しかし、このような状況でも初心者勧誘に努力しているクラブはいくつかある。

## OLとアドベンチャー

ここ数年多摩OLは毎年初心者向け

講習会を行っている。直接勧誘を目的とはしていないそうだが、講習会を経て多摩OLに入会する人もいる。参加者は毎回数十人程度で、ジュニアの参加もそのうち約半分。内容はまず、講義を行ってそれから初めてトレインに入ると段階を踏んでいる。

また、多摩OLは田中正人氏（多摩OLでアドベンチャーレース界の第一人者）を通じてアドベンチャーレース界での知名度が高い。毎年奥多摩で開催される夜中約72キロ山岳を走る、24時間山岳耐久レースでの活躍もあり、山岳レースやアドベンチャーレース界では多摩OLの知名度はかなり高い。結果として、これらの分野から入会してくる方も多いそうである。

## タイミングが重要

人間OLCという加治丘陵での入間オリエンテーリングカーニバルを思い出す人もいるかもしれない。地元と密着したオリエンテーリング大会で、初心者も愛好者も多く参加したイベントだった。

このような大会企画からも初心者に大事にするところが伺えるが、やはり新人勧誘でもその方向性は継続している。クラブ自体、会員構成の年齢層も幅広く、またエリートから初心者まで様々なレベルで競技を楽しんでいる。

事実、初心者勧誘も成功しており、毎年数人入会している。

勧誘については特別なことをしている訳ではなく、どちらかというと地味な活動をタイミングよく行っているという感じである。

「初心者教室やクラブ主催大会、webを通じたお問い合わせに対する応答などの機会に初心者の方からクラブやOLに興味を持っていただける場合があり、そのときに積極的にクラブを紹介し、もしよろしければ、という雰囲気です誘ったりしています」

とウェブを担当している中堀さんは言う。興味をもってもらえば、クラブ員と大会のNクラスに出てもらい、とにかく体験してもらおうようにしている。

その際の注意点としてタイミングがとても大事と語る。

「鉄は熱いうちに打てではないですが、興味を持っていただけたときにいかにそれを継続してもらえるか、またそれをクラブの方へも持ってもらうか。このように思うので、例えばwebページ宛にいただいたメールには一両

日中にお返事を出すように心がけています」

## 地図とコンパスは恋人？

調布市オリエンテーリング協会は、他のオリエンテーリングクラブとはひと味違い、ウォーキングにだいぶ力を入れている。実際日本ウォーキング協会にも加盟し、ウォーキング大会も年2回開催している。

その繋がりからオリエンテーリングの初心者勧誘にも繋がるようだ。

「コンパスと地図は恋人」というタイトルで初心者教室を開催しており、「ウォーキングの仲間も多数参加してくれています」と調布市オリエンテーリング協会の小川さんは言う。

「何しろオリエンテーリングを知らない人が多いのにびっくりします。もう少し宣伝した法がよいのではと思います」と宣伝の少なさを小川さんは初心者勧誘がうまく行っていない理由の一つに挙げる。

また「気軽にどこでも誰でも参加できるような大会を作っていく」ことも大事と挙げている。

2005年の世界選手権大会開催で準備に追われる愛知県オリエンテーリング協会でも「気軽さ」に注目し、ここ数年「フラワーウォーク」という季節の花をオリエンテーリングしながら巡るとい企画を行っている。毎回ほとんど初心者数十人から百人程度の参加者がいる。

また横浜OLCも毎月県内で気軽に参加できる練習会を開催し、クラブ外にもオープンにしている。気軽に参加できる点が初心者の始めるきっかけになっている。

## オリエンティア倍増計画

今回取り上げたクラブや協会は、普通に考えられる範囲での初心者勧誘活動で一定の成功を得ている。これらの活動を見ると、まだまだ世の中にオリエンテーリングをやる機会があれば、やりたいと思っている人がいることを感じさせる。オリエンテーリングの競技人口が減ってきたのは決してオリエンテーリングのスポーツとしての魅力がないわけではなく、オリエンテーリング界全体としての普及活動が怠慢であったからではないだろうか。

これらクラブの活動を参考にすれば、オリエンティア倍増計画も決して夢ではないだろう。

（山本英勝）